

「東アジアにおける生態系の修復」に関する国際会議参加報告



技術普及部 副参事 伊藤 将文

1. はじめに

2006年6月16日（金）から18日（日）にかけて、大阪のホテル阪急エキスポパークにて「東アジアにおける生態系の修復」に関する国際会議（以下、国際会議）が開催された。本稿では、著者が参加した当国際会議のセッションの概要及び国際会議の合間を縫って視察した大阪市街の水辺整備事例を紹介するものである。

2. 国際会議

国際会議は環境省、国土交通省及び（社）自然環境共生技術協会の後援の基、ICLEE及びInternational Association for Landscape Ecology Asia-Pacific Region (IALE Asia-Pacific Region) の共催により開催された。

著者は、(財)リバーフロント整備センターで進行中の「Asian River Restoration Network (ARRN)」の設立に向けた取り組みの紹介を行った。この発表は、一般の研究の発表とは異なり、現状のプロジェクトの進行状況を報告し、国際会議参加者にARRNの理解を深めてもらうことを目的としている。

当ネットワークは類似した気候や地形条件を有するアジア地域を中心に河川・流域再生に関する事例、工法、関連出版物、学識専門者等の情報を交換し、互いにより質の高い環境再生、保全の技術を培うオープンな組織を目指し、設立するものであり、正式な設立は2006年10月を予定している。

国際フォーラム、ワークショップ等による人的な交流、Webサイトを活用した情報交換及び河川・流域再生に向けたガイドライン（案）の作成を主要な活動としている（図-1）。

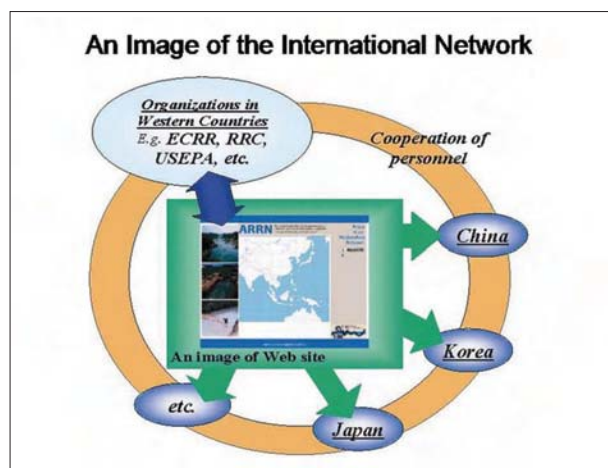


図-1 ネットワークの概念図

この発表に関して、「自然再生の目標は何か」、「韓国の著名な清溪川も自然再生なのか」等の質問をいただき、参加者の多少の興味を触発することができたと考えている。

3. 大阪の水辺環境視察

国際会議の合間に大阪市街の水辺を2箇所視察した。視察箇所は、城北橋付近のワンド及び戎橋付近の「とんぼりリバーウォーク」である（写真-1, 2）。視察には、韓国のKorean Institute of Construction Technology (KICT) の主任研究員Ahn Hong Kyu氏及びソウル女子大学のLee Chang-Seok教授が同行した。いずれの水辺環境にも両氏の興味は尽きない様子であった。特に、2005年に再生したソウル市内の清溪川と同じ都市河川に類する道頓堀の水辺環境については、整備方法、住民との合意形成及び観光船の運航等の利活用に大変興味を抱いたようであった。



写真-1 淀川のワンド（城北橋より上流を望む）

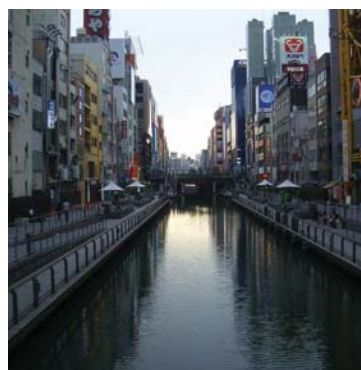


写真-2 とんぼりリバーウォーク

4. おわりに

上記の2つの事例のみならず、日本国内にはアジア諸国が今後河川・流域の環境整備を行っていく上で、参考となる事例が多数ある。それら事例の紹介、技術、利活用方法の情報を国際学会やARRNを通じて紹介していくことは、日本の技術を世界に広める国際貢献のみならず、諸外国の情報収集の呼び水としての役割を果たせるものと考えられる。